

(2) みどりの変遷

ア 土地利用の変遷状況

(ア) 土地利用面積の変遷

土地利用の変遷を、国土数値情報の土地利用細分メッシュデータ（国土交通省）をもとに整理しました。土地利用の変化を見ると、県全域で市街地が増加し、森林や農地が減少しています。各圏域の特徴を下表に整理します。

（表中のグラフは、昭和 51 年(1976 年)を 100 とした土地利用面積の増減割合を示しています。人口増減率は、昭和 55 年（1980 年）、平成 17 年（2005 年）の国勢調査結果を用い、昭和 55 年（1980 年）を 100 とした割合を示しています。）

表 2.10 土地利用面積変遷の特徴（1/2）

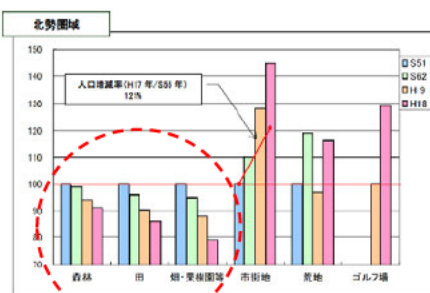
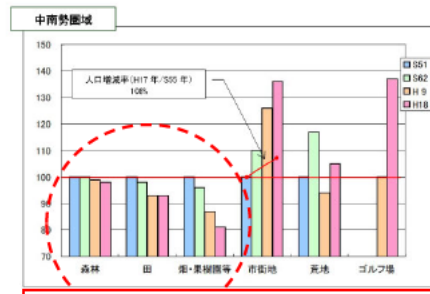
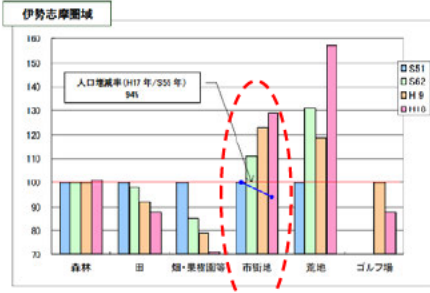
圏域	特徴
北勢	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加率に比して市街地の拡大率が大きく、かつ、森林、田、畑・果樹園等が共に減少しています。 森林の減少が顕著な圏域です。 土地利用細分メッシュデータ画像からも既成市街地の拡大が確認できます。  <p style="text-align: center;">森林、田、畑・果樹園等がともに減少</p>
中南勢	<ul style="list-style-type: none"> 人口増加率に比して市街地の拡大率が大きく、かつ、森林、田、畑・果樹園等が共に減少しています。 土地利用細分メッシュデータ画像からも既成市街地の拡大が確認できます。  <p style="text-align: center;">森林、田、畑・果樹園等がともに減少</p>
伊勢志摩	<ul style="list-style-type: none"> 人口が減少している反面、市街地が拡大しています。 また、荒地が増加している特徴があります。 田と畑・果樹園等が減少していますが、森林は減少していません。  <p style="text-align: center;">人口減少の中、市街地は拡大</p>

表 2.10 土地利用面積変遷の特徴 (2/2)

圏域	特徴
伊賀	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の拡大が大きいことは他圏域と同様ですが、畑・果樹園等が増加している特徴があります。 土地利用細分メッシュデータ画像からも市街地の拡大が見て取れます。
	<p>伊賀圏域</p> <p>人口増減率(H17年/S55年) 130%</p> <p>畑・果樹園等は増加</p>
東紀州	<ul style="list-style-type: none"> 人口増減と市街地の拡大のギャップが最も著しい圏域です。 また、田のみが減少している特徴があります。
	<p>東紀州圏域</p> <p>人口増減率(H17年/S55年) 79%</p> <p>人口減少の中、市街地は拡大</p>

表 2.11 土地利用の変遷 (面積、ha)

		森林	田	畑・果樹園等	水域	左記小計 (緑地)	市街地	荒地	ゴルフ場
北勢	S51	48,178	26,273	9,667	6,897	91,014	17,432	2,932	-
	H18	43,760	22,567	7,599	6,037	79,963	25,304	3,387	2,775
中南勢	S51	150,356	28,880	7,615	5,615	192,465	11,364	2,339	-
	H18	147,690	26,845	6,152	5,132	185,818	15,418	2,451	2,517
伊勢志摩	S51	62,346	10,929	5,687	2,234	81,196	5,179	1,053	-
	H18	62,694	9,597	4,032	2,153	78,477	6,696	1,652	446
伊賀	S51	45,257	13,620	1,801	1,929	62,608	4,642	1,499	-
	H18	42,065	12,827	2,017	1,773	58,682	7,337	1,297	1,432
東紀州	S51	86,299	3,934	2,603	2,029	94,868	1,691	1,312	-
	H18	86,653	2,559	2,679	1,993	93,884	2,693	1,289	0
全県	S51	392,435	83,638	27,373	18,704	522,150	40,308	9,135	-
	H18	382,863	74,395	22,478	17,088	496,824	57,449	10,075	7,170

データ出典：国土数値情報、土地利用 100m 細分メッシュデータ (国土交通省)

(イ) 土地利用メッシュ図で見るみどりの変遷

a 北勢圏域

- ・名古屋大都市圏の南西部に位置し、宅地開発等によりみどりが減少している圏域です。
- ・市街地内及び外縁のみどりが失われ、また、みどりの軸（山）と都市をつなぐみどりも減少していることが読み取れます。

昭和 62 年 (1987 年)

平成 18 年 (2006 年)

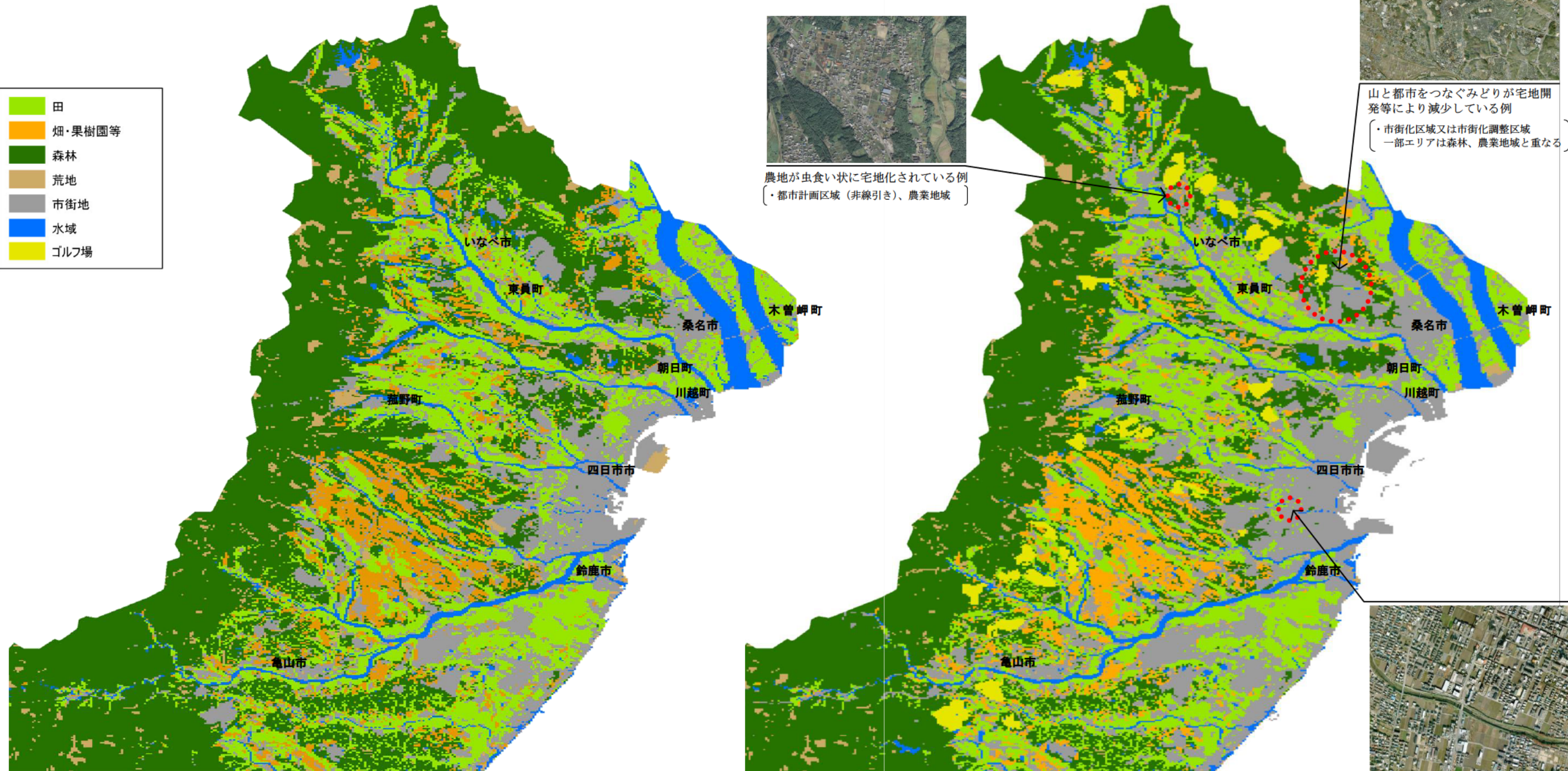
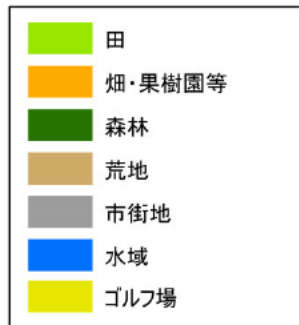


図 2.21 北勢圏域の土地利用の変遷

メッシュ図 出典 : 国土数値情報、土地利用 100m 細分メッシュデータ (国土交通省)

注) 「ゴルフ場」の土地利用区分は平成 9 年(1997 年)データより追加されており、昭和 62 年 (1987 年) のデータでは「市街地」として判定されています。

航空写真 出典 : Mie Click Maps (三重県地図情報サービス)

b 中南勢圏域

- ・津市において、みどりの軸（山）と都市をつなぐみどりが減少していることが読み取れます。
- ・市街地内及び外縁の農地も減少しています。ゴルフ場の開発も目立ちます。

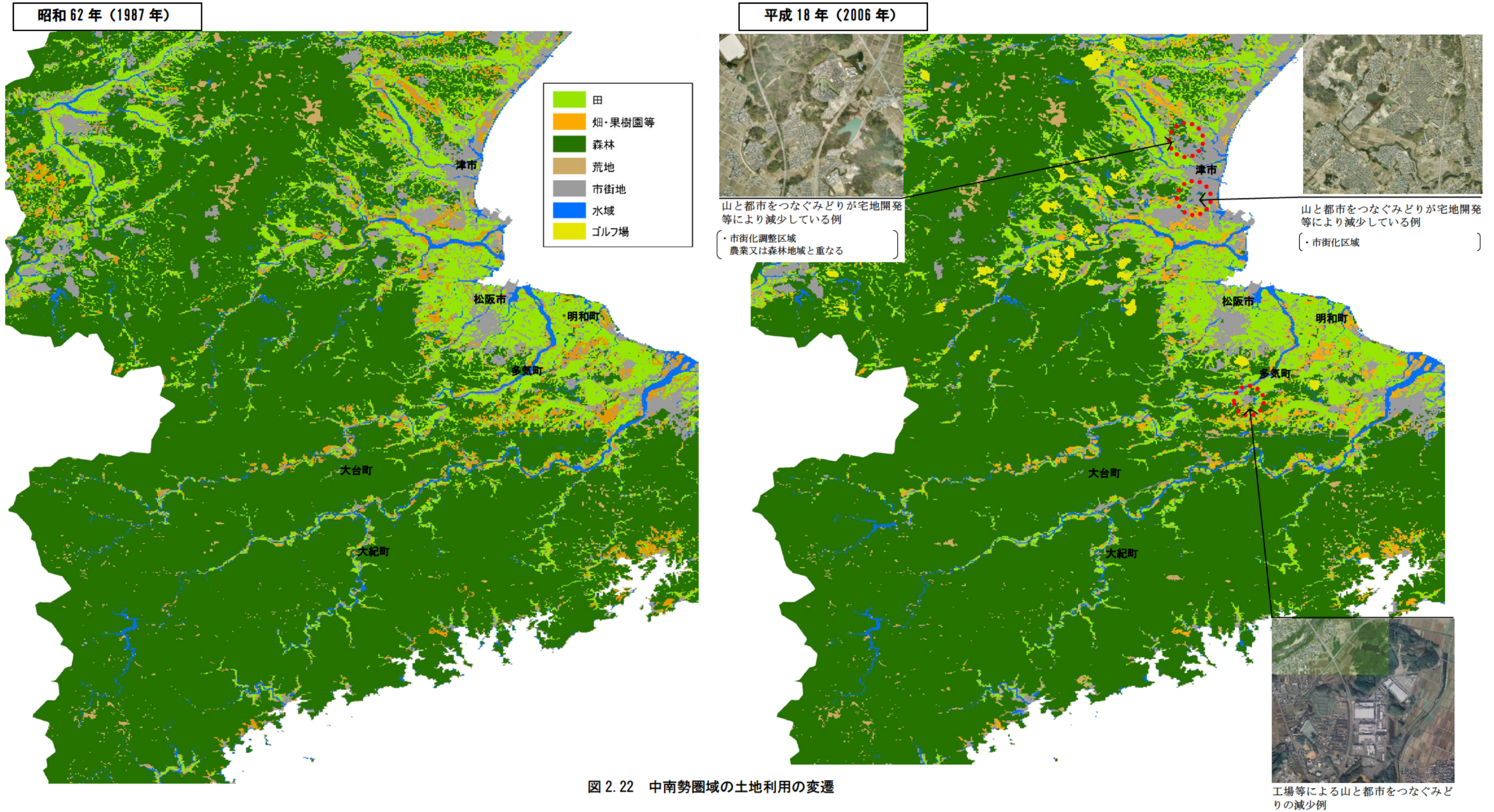


図 2.22 中南勢圏域の土地利用の変遷

メッシュ図 出典：国土数値情報、土地利用 100m 細分メッシュデータ（国土交通省）

注）「ゴルフ場」の土地利用区分は平成 9 年（1997 年）データより追加されており、昭和 62 年（1987 年）のデータでは「市街地」として判定されています。

航空写真 出典：Mie Click Maps（三重県地図情報サービス）